

令和5年度の学校評価

本年度の 重点目標	<p>ア 感染症対策、食育、医療的ケア、防災防犯等、健康と安全に配慮した学校づくりを進める。</p> <p>イ 自立と社会参加に向けて、一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援を追求する。</p> <p>ウ 主体的、継続的に研修に取り組み、専門性の向上と授業改善を図る。</p> <p>エ 地域の教育資源や外部の専門家と連携し、社会に開かれた教育課程をP D C Aサイクルで実施する。</p> <p>オ 全教職員の創意と工夫で多忙化を改善し、教育活動の充実を図る。</p>		
項目 (担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
小学部	<p>・学びの楽しさを通して、興味・関心や人との関わりを広げる。</p>	<p>・一年先の具体的な目指す姿を保護者と共有した上で、指導・支援を行う。</p> <p>・児童が学びの楽しさを感じられるよう授業を工夫し、P D C Aサイクルのもと授業実践を進める。</p> <p>・安全で健康的な学校生活を送るための指導や環境整備をする。</p>	<p>・懇談会等を通じて教育的ニーズの把握を十分に行い、児童の目指す姿を明確にして立案する。</p> <p>・I C Tや地域の教育資源も活用し、実態に応じた授業を設定する。</p> <p>・実践の評価、改善を確実にを行い、次の授業実践に生かす。</p> <p>・学習の様子や成長を保護者に丁寧に説明し、家庭と連携して児童の主体的な取組を支援する。</p> <p>・危険を予測し、その予防や防止対策を講じる。</p>
中学部	<p>生活に結びつく学力を育てる。</p>	<p>・授業改善のアプローチを教職員間で共有し、生徒の「わかる」「できた」「もっと知りたい」につなげていけるように授業実践に努める。</p> <p>・学習意欲を喚起する個々への支援方法、授業の進め方、環境作りなどを考えることで、よりよい授業実践に努める。</p> <p>・教職員間で連携をとり、主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業実践に努める。</p>	<p>・学年会や教科会だけでなく、O J Tを活用し、それぞれの教職員が持っている情報や実践例を共有し、生徒情報の共有や教職員のスキルアップに努める。</p> <p>・生徒の自発的な活動を促すために、生徒の興味・関心などを考慮した授業展開を目指す。</p> <p>・各授業において、計画、実行、評価、改善を確実にを行い、よりよい授業実践を行う。</p> <p>・目標、評価を明確に示す。</p>
高等部	<p>卒業後の生活につながる力を身に付ける。</p>	<p>・生徒のよさや可能性を引き出し、発展や定着を図る授業実践に取り組む。</p> <p>・成人としての自立や社会参加に向けた学習内容の整理をする。</p>	<p>・生徒個々の教育的ニーズを把握し、新学習指導要領を踏まえた観点別の指導と評価を学習指導の改善に生かし、I C Tを活用した学習活動の充実を図る。</p> <p>・在学中に成人することを踏まえて、進路に関する情報や生徒の状況を教職員、保護者、関係機関で共有するとともに、地域の資源を生かした進路指導に取り組む。</p>
訪問教育	<p>人や物と関わる力を育てる。</p>	<p>・一人一人の興味・関心、生活年齢や発達段階に応じ、充実した授業ができるようにする。</p> <p>・学校行事への参加、友達と関わり合う授業、訪問教育交流会など、個に応じた形での学習活動を進める。</p> <p>・児童生徒が心身ともに安定して授業に臨めるようにする。</p>	<p>・教職員間の情報交換を密にし、互いに授業の参観や分析ができる機会を設ける。</p> <p>・保護者、関係教職員と連携を図る。</p> <p>・授業前後の時間や懇談を活用し、保護者や病院、施設関係者と懇談を行う。</p>
総務	<p>関係諸団体への作品の出品を通して、教育活動を保護者や地域に伝える。</p>	<p>・出品作品数を増やすために相手方と年間を通しての予定を組み、早い時期から校内に周知できるようにする。</p> <p>・校内掲示板の教育活動を伝える写真などを学校記録「さわらび」と連携して定期的に交換する。</p>	<p>・校内ネットワークを活用し、情報を発信していく。美術科や国語科や作業と連携して出品作品を充実させる。</p> <p>・関係の校務分掌と連携して行っていく。</p>
教務	<p>新学習指導要領を踏まえた指導の充実を図る。</p>	<p>・年間指導計画がP D C Aサイクルで実施できるように書式の検討をする。</p> <p>・新学習指導要領を踏まえて学習活動及び評価の充実を図る。</p>	<p>・年間指導計画の新書式を教科会や領域会で検討できるように立案する。挙げた意見を集約し来年度から活用できる新様式を提案する。</p> <p>・年間指導計画と個別の指導計画の関連性を明確にし、3観点での評価について教職員に周知していく。</p>

生活指導	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の心の健康状態を把握する体制を整える。 ・安全にスクールバスが運行できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・心の健康についてのアンケートを実施する。 ・関係者との連携を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの実施方法を検討する。対応が必要な児童生徒がいる場合は、関係職員と話し合い、対応していく。また、スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーについての情報を教職員と共有する。 ・バス会社、生活指導部、担任、保護者、添乗職員との連携を密にする。また、バス会社に対して安全運行への働きかけをする。
研 修	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員それぞれの研修を進めやすくする。 ・文書やファイルの整理を進め、業務の効率化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員が研修に積極的に取り組めるよう、校内・校外における各種研修について情報を発信していく。 ・各ファイルの場所が分かりやすいように、項目を整理していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・掲示物、校内ネットワークなどを使い、教職員が情報を受け取りやすいようにする。 ・過去の文書を精選し、今後の業務に活用できそうなものを整理して保存しておく。
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ・感染拡大防止に努め、児童生徒・職員が安全安心に学校生活を送ることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に本校独自のガイドラインの見直しを行う。 ・状況に応じて学校医や保健所など関係機関と連携し、検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒や保護者、教職員の意見に耳を傾け、検討材料とする。 ・県のガイドラインを基に本校のガイドラインを定期的に見直し、教職員及び児童生徒、保護者に情報を発信する。
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・進路選択や卒業後の生活に役立つ情報を児童生徒や保護者、職員等と広く共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部の講師を招き、障害者を取り巻く社会情勢や進路選択に役立つ情報を提供する。 ・学校ホームページや掲示板などさまざまな手段を活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒や保護者、職員等のニーズや関心を把握する。 ・対象に合わせて、分かりやすい言葉やイメージを使って伝えたり、資料を工夫したりする。 ・情報の正確性や更新日時に注意する。 ・自立支援協議会や地域の事業所との連携を深める。
図 書 視 聴 覚	<ul style="list-style-type: none"> ・目的の本が探しやすい図書館作りを目指す。 ・業務を分担、精選する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表示やレイアウトを工夫してどこにどのような本があるか分かりやすくする。 ・業務内容を見直し、適切に分担する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本を見やすく、取りやすくする工夫をする。 ・本や棚の修復、図書館内の環境の改善を図る。 ・業務内容の精選を含めた見直しをし、効率的に行えるようにする。
情報教育	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員がスムーズに情報機器、情報システムを操作できるようにする。 ・児童生徒用 iPad の運用を円滑に行えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報機器、情報システムを学校の教職員が操作しやすいようにマニュアル化する。 ・校務支援システムや研修等を利用し、校内の教職員に運用方法を分かりやすく周知する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・誰もが操作できる一番簡単な方法を探る。 ・いつでも目に触れられるところに資料を配置し、教職員に細かく周知する。
自立活動	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の教育的ニーズに応じた支援や自立活動の指導ができるよう、情報の共有に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・周りの分掌と連携を取りながら、児童生徒、教職員が相談、利用しやすい環境を整える。 ・校内研修や外部の専門家を招いての相談活動を行い、広く校内に伝達する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器、コミュニケーション機器、自立活動器具など、多くの人々が有効に使える環境作りを進める。 ・外部講師や校内の人材を活用した研修や相談活動の充実を図る。実施内容を簡潔にまとめて伝達するとともに、実施後の様子や経過の確認を行い、後の指導に生かせるようにする。
教育支援	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の学校や校内への支援を継続的に行い、教育支援機能の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・巡回相談や支援・指導検討会では十分な情報提供と丁寧な相談活動を実施する。また、本校の教育相談や研修会の案内を積極的に行う。 ・校内外に、支援具や支援方法等を紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談や研修会を通して、継続して支援していく方向があることを伝えていく。 ・支援具の紹介では、具体的な利用例を示すなど、使ってみようと思えるような紹介を心がける。
学校関係者評価を実施する主な評価項目について	<ul style="list-style-type: none"> ・5類感染症へ移行後も、健康管理や換気対策を心がけ、安心安全な教育環境を整える。 ・自立と社会参加に向けて、一人一人の教育的ニーズに応じた指導及び健康と安全に配慮した指導を進める。 ・業務の適正化を図るとともに、ストレスチェックや健康体操講座の企画などを通じて、教職員の適切なメンタルヘルスの保持や健康管理に努める。 		